

[H30年頭挨拶]

H30-1-9

矢野弘典

二つのG：原則と現場

明けましてお目出とうございます。今年も宜しく申し上げます。年末年始には、ご家族と共に英気を養われたことでしょう。

振り返ってこの一年は、「脱皮の年」を目指し、確かな結果を残すことができました。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。いちいち事例を挙げることはここではいたしません。センターの着実な事業拡大、三公社の独自事業での実績など、数多く見るべきものがあったと思います。特に、市町との距離が格段に近づいたことは、これからの事業展開に大きな力となると思います。本当にありがとうございました。

さて正月を迎え、皆さんそれぞれに新年の抱負をお持ちのことでしょう。私も多分皆さんと同じように、除夜の鐘を聞き、フルムーンを仰ぎながら初詣に出かけ、新しい気持ちで元日を迎えました。

そして、「正月」の意味をあらためて考えてみました。何が出典であったかハッキリしないので恐縮ですが、物の本にはこう書いてありましたので良く憶えています。「正」という字は、「一に止まる」と書きます。「一」とは原点でありますから、「正」とは「原点に止まる」、あるいは一歩進んで「原点を守る」という意味です。原点とは、仕事面だけではなく自分自身をも指します。人間としての私、さらには「本来のわたし」でもあります。従って、「正月」とは、本来の自分に戻る月なのです。慌ただしい一年を振り返り、とかく忘れがちな本来の自分を取り戻し、損得を離れて生き方の軌道修正をするのが正月で、その始まりが元旦であります。

私は、相撲協会の横綱審議委員を仰せつかっております。昨年来の相

撲界の騒動については多くの方々にご心配をかけましたが、これも相撲が国技として世代を超えて人々に愛されてきたからだと思いません。私は一委員として、あらためて歴史と伝統が溢れんばかりの本来の相撲道のあり方や、私自身のささやかな経営経験に基づく組織活動の原点に立ち返って、考え、行動しました。「誰が正しいかではなく、何が正しいか」「将来にとってどうあるべきか」という観点でもあります。

また、私は静岡県の「地域自立のための人づくり・学校づくり実践委員会」の委員長として教育改革に携わっておりますが、10数年前に話題になった「米百俵」の物語を再読し、基本に立ち返ることの重要性を思いました。読んだ本は、山本有三「米百俵」（新潮文庫）と月岡兎平「米百俵の真実」（致知出版社）です。明治維新の戦争で反官軍となったために疲弊困窮し、その日の食べ物にも事欠いた長岡藩士に隣藩から贈られてきたのが米百俵。それをどう使うかという物語です。小林虎三郎という参政は、次のように諭して反対する藩士を説得し、子どもたちの学校と武道場を建てる資金に当てることになりました。「百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」（新潮文庫）と。将来を確信する志の高さに、私は深い感銘を受けました。

大分前置きが長くなりましたが、私は本年を「二つのG」の年にしたいと考えています。二つのGとは、「原則と現場」です。

「原則」とは、色々な意味があります。いくつか挙げてみましょう。物ごとの「原点」、あるべき姿を示す「理念」、長い将来を展望する「志」、変化する環境の中でも変わらない「基本」・「法則」・「筋」などです。英語では、プリンシプルと申します。

「現場」とは、原則を実行する「場」です。原則だけを頭に描いても、「現場」に出て実行しなければ何なりません。畳水練とか、絵に描いた餅とか、の類です。また現場に出なければ、原則の本当の意味が

分かりません。「現場」は原則に肉付けをする場なのです。「原則」と「現場」はこのように循環しながら、お互いを高め合っていくものだと思います。

では、私たちにとって「原則」とは何でしょうか。それは、いつも申し上げていますが、「お客様とともに歩む」という経営理念であり、それに伴う「健全経営の実現」の二つであります。

私たちが日頃から「お客様とともに歩む」心に徹して行動したときに、健全経営が実現します。まず第一に「社会的信用の健全性」が高まります。その結果として、第二の「決算の健全性」や第三の「資産の健全性」が実り、念願とする三つの「経営の健全性」を獲得することができます。そのようにして初めて、当センターと三公社の将来が保障されるのです。順序を逆にしてはなりません。私たちが心のこもった優れたサービスを提供するとき、世の中はそれに確実に答えてくれるのです。原則あるいは志が先であり、収益は後です。それが、組織の持続可能性を高める最良最善の道だと私は信じています。順序を逆にして不祥事を起こし、社会から糾弾され、窮地に陥った企業や団体を思い起こして下さい。特にこれからを担う方々には、日々の課題として自らに問い続けて頂きたいと思います。

次に「現場」は、私たちの目の前にあります。道路・住宅・土地の現場や事務所、本部、地域社会、県・市・町の関係先、これらのすべてが現場です。私は「現場主義」を大事にしたいと思います。現場主義とは、「現場に立って考え行動する」ことです。皆さん、寸暇を惜しんで現場に出て下さい。多くの人に会い、率直な意見を聞きましょう。実物を自分の目で見て、直に触れましょう。定期的に回れば、常に新しい発見があり、変化が分かるはずです。変化の中には、必ず何ごとかの兆候が現れています。それをしっかりと掴みとり、良い芽は育て、悪い芽は摘み取るようにして下さい。職場の「現場力」は、このようにして初めて高まっていきます。現場力とは、次の方程式によって表すことができます。

《現場力＝使命感＋チームワーク＋技術力＋経験》

使命感とは、一人ひとりの「志」です。そして、現場力の総合したものが、団体や企業の真の実力となるのです。

振り返って今年の業績表彰の結果は、例年に優るとも劣らず、現場主義、現場力が存分に発揮されており、実に頼もしく、嬉しく存じました。現場での苦労がにじみ出た成果でした。年間大賞となった二つの案件は、皆さんご承知のとおり、発注支援機関の資格取得と実績、もう一つが袋井・掛川市の市営住宅管理受注の関連です。ともに甲乙が付けがたく、毎年一件だった大賞が二件となったものです。表彰を受けた他の案件も、いかに深く現場に入り込んでいるかが分かる、素晴らしいものばかりでした。この勢いを今後も続けて頂きたいと思えます。

本年度の事業計画や施策については、予算の中に具体化していますので、それを目標に、必要な修正は時に応じて加えながら実行していけばよいと思います。最後までご尽力を頂ければ幸いです。平成30年度の計画や施策は、新しい予算や中長期計画の中で具体化することになりますので、3月までの間に衆知を集めて立案してください。

終わりにあたり一言申し上げます。ご家族ともども、身心の健康に留意して下さい。そして、悔いのない一年といたしましょう。

明るく、元気で、仲よく、厳しく！

以上